
第 33 回
日本家族社会学会大会
プログラム

2023年9月2日（土）・3日（日）

開催校・会場：神戸大学（六甲台第2キャンパス）

大会日程

会場：神戸大学（六甲台第2キャンパス）

▼第1日 2023年9月2日（土） 受付開始 09：15～ 文学部A棟エントランス

10:00～12:30	自由報告(1) ① 就業と家事 ② 若者 ③ 教育・階層 ④ ケア・家事	文学部 B331 教室 文学部 B132 教室 文学部 B233 教室 文学部 B135 教室
12:30～14:00	昼食・委員会	
14:00～16:30	ラウンドテーブル 〈学会事業としての〉NFRJ にいま何が求められるのか？ 自由報告(2) ⑤ 女性と役割 ⑥ 子ども ⑦ 国際比較	文学部 B331 教室 文学部 B135 教室 文学部 B132 教室 文学部 B233 教室
16:45～17:45	総会	神戸大学百年記念館 六甲ホール
18:00～19:00	交流会(茶話会)	瀧川記念学術交流会館

▼第2日 2023年9月3日（日） 受付開始 09：15～ 文学部A棟エントランス

10:00～12:30	開催校企画テーマセッション 地方社会で生きる外国人住民の暮らし・仕事・学校—地域研究から迫る兵庫県豊岡市の事例— 自由報告(3) ⑧ 男性と家族 ⑨ 結婚・夫婦 ⑩ 制度・政策	文学部 B132 教室 文学部 B331 教室 文学部 B233 教室 文学部 B135 教室
12:30～14:00	昼食・委員会	
14:00～16:30	シンポジウム：若者の地方暮らしから考える新時代の家族	神戸大学百年記念館 六甲ホール

※ 今大会も懇親会は開催しませんが、交流会（お茶とお菓子）を開催予定です。
（参加登録時に参加有無を選択ください）

大会プログラム

第1日目 9月2日(土)

受付時間 9:15~

午前の部 10:00~12:30

自由報告(1)

①就業と家事(文学部 B331 教室)

- ①-1 Increasing Educational Gradient: Cohort Changes in Women's Employment around Childbirth in Japan
- ①-2 家族意識の長期時系列変化から考える「女性の就労」の位置づけ—「日本人の意識調査」データを用いて—
- ①-3 家事分担の規定要因としての性役割意識項目の再構築
- ①-4 既婚女性の就業に対する配偶者所得効果とM字型就業パターン

司会 西村純子(お茶の水女子大学)

麦山亮太(学習院大学)

中西泰子(相模女子大学)

伊達平和(滋賀大学)

木村裕貴(東京大学・院)

②若者(文学部 B132 教室)

- ②-1 大学生における「浮気」の3F要因—宗教、友人、家族の影響—
- ②-2 中国大都市部における家族モデルと若年層女性のライフコース選択の関連性
- ②-3 「転勤」を伴う働き方が出生意欲に及ぼす影響—若年正規雇用者のジェンダー比較分析から—
- ②-4 ~~【報告キャンセル】「成人への移行」に関する年齢規範—属性と主観的な「人生の時刻表」の関連について—~~

司会 守泉理恵(国立社会保障・人口問題研究所)

小島 宏(早稲田大学)

劉 宇婷(同志社大学・院)

藤野敦子(京都産業大学)

~~田中慶子(明治学院大学)~~

③教育・階層(文学部 B233 教室)

- ③-1 成績・アスピレーション形成に影響する親子間葛藤の階層差に関する研究
- ③-2 子育て世代のパーソナルネットワーク—孤立・競争・共生—
- ③-3 三世代にわたる不平等の再生産メカニズム—世代間支援に着目して—
- ③-4 親の教育関与が子の教育達成に及ぼす影響—3世代調査を用いた分析—

司会 斉藤知洋(国立社会保障・人口問題研究所)

小西 凌(三重大学・院)

荒牧草平(大阪大学)

俣野美咲(東京大学)

吉田 崇(静岡大学)

④ケア・家事(文学部 B135 教室)

- ④-1 未婚の女性・男性の家事時間とその蓄積
- ④-2 トランスジェンダー男性の子を持つ母親の“経験”

司会 乾 順子(大阪公立大学)

柳下 実(佛教大学)

勝又栄政(立命館大学・院)

④-3 コロナ禍における自宅の認知症高齢者の介護は
誰が担っているのか—群馬県の過疎地域と
非過疎地域の家族介護者を中心に—
金 貞任（東京福祉大学）

④-4 スティグマされた流動する女性における子育てと
母性礼賛 —留守児童の母親たちの語りから—
巖 俊（京都大学・院）

昼食・委員会

12:30~14:00

午後の部

14:00~16:30

ラウンドテーブル

〈学会事業としての〉NFRJにいま何が求められるのか？（文学部 B331 教室）

オーガナイザー 保田時男（関西大学）

西村純子（お茶の水女子大学）

斉藤知洋（国立社会保障・人口問題研究所）

自由報告（2）

⑤女性と役割（文学部 B135 教室）

⑤-1 中国農村部における女性役割の転換
—「陪読」農村女性の語りを手掛かりに—

⑤-2 現代中国における家父長制
—中国の主婦論争の読解を通じて—

⑤-3 葬送・祖先祭祀における嫁役割
—分析視角としての検討—

司会 施 利平（明治大学）

鄭 怡（京都大学・院）

王 嘉若（同志社大学・院）

森 恭子（同志社大学・院）

⑥子ども（文学部 B132 教室）

⑥-1 子ども虐待事例における検証のありかたを問いなおす
—子ども虐待防止の観点から—

⑥-2 「沖縄の母子世帯」の検討に向けた
ライフヒストリー法の位置

⑥-3 親の不在状況からみる子どもとの関わりの変化
—中国における CFPS データの分析から—

⑥-4 戦後日本の養護施設のもとにあった子どもの家族語り
—作文・手記を手がかりに—

司会 野辺陽子（日本女子大学）

久保原大（東京都立大学）

平安名萌恵（立命館大学・院）

夏 天（慶應義塾大学・院）

野崎祐人（京都大学・院）

⑦国際比較（文学部 B233 教室）

⑦-1 Evaluating the East Asian Model of Low Fertility
Hypothesis: Evidence from Japan

⑦-2 家族主義国家の脱家族志向？
—7カ国の若者の家族価値比較—

司会 岩澤美帆（国立社会保障・
人口問題研究所）

打越文弥（プリンストン大学・院）

麦山亮太（学習院大学）

笹野美佐恵（茨城大学）

- ⑦-3 家事分担におけるインセンティブと規範の相互依存性
 一相対的資源仮説・低費用仮説・
 フレーム選択モデル— 尾藤央延（東京都立大学,
 日本学術振興会 PD）
- ⑦-4 福祉制度と家族主義
 一国際比較からみる福祉レジームと脱家族化— 游 天舒（北海道大学・院）

総会（神戸大学百年記念館六甲ホール）	16：45～17：45
交流会（瀧川記念学術交流会館）	18：00～19：00

第2日目 9月3日（日）

受付時間	9：15～
午前部	10：00～12：30

開催校企画テーマセッション（文学部 B132 教室）

地方社会で生きる外国人住民の暮らし・仕事・学校

—地域研究から迫る兵庫県豊岡市の事例—

司会 佐々井司（福井県立大学）

オーガナイザー 平井晶子（神戸大学）

討論者 山根真理（愛知教育大学）

- | | |
|--|---------------|
| 1 地方社会における外国人住民の暮らしと仕事
一兵庫県豊岡市の事例から— | 梅村麦生（神戸大学） |
| 2 国際結婚妻の就業と彼女たちの2つの家族 | 平井晶子（神戸大学） |
| 3 外国ルーツの子どもの学校生活
一小中学校における“学校文化”との相克— | 奥井亜紗子（京都女子大学） |
| 4 自治体による妊産婦・子育て家庭への支援の取り組み | 小林和美（大阪教育大学） |

自由報告（3）

⑧男性と家族（文学部 B331 教室）

⑧-1 「ケアリング・マスキュリティ」の複数性に関する考察

—東アジア都市圏における〈葛藤的男性性〉の探究—

司会 中里英樹（甲南大学）

多賀 太（関西大学）

石井クンツ昌子（お茶の水女子大学）

伊藤公雄（京都産業大学）

植田晃博（一般社団法人ビジネスと
 人権対話救済機構）

⑧-2 家事に向き合う男性の意識の考察

—損得や快苦や繁閑とは異なる規定要因—

須長史生（昭和大学）

⑧-3 結婚難に陥っているモンゴル人男性の

ライフストーリー分析

—内モンゴル東部農村地域の事例研究から—

鳥 英嘎（中央大学・院）

⑧-4 既婚男性の家庭における情緒的労働に対する

母性愛規範の作用 —家事育児分担比率が高い

主夫男性のインタビュー調査から—

國重遥希（東京大学・院）

⑨結婚・夫婦（文学部 B233 教室）

- ⑨-1 現代日本における夫婦像の変容に関する一考察
—家族心理学における「親密性」概念に着目して—
- ⑨-2 オンラインによる出会いと夫婦の性別役割分業
—東大社研若年・壮年パネル調査を用いた分析—
- ⑨-3 回顧式家族調査からみる家族形成期の意識の変化
—結婚・離婚・再婚・子の出生—
- ⑨-4 夫婦カウンセリングの現場からみる「話し合えない」
夫婦たちの悩みとその関係調整
—〈感情作業〉に着目して—

司会 西野理子（東洋大学）

栗村亜寿香（京都大学）

石田 浩（東京大学）

保田時男（関西大学）

岡田玖美子（大阪大学・院）

⑩制度・政策（文学部 B135 教室）

- ⑩-1 明治日本はなぜ民法で夫婦同姓を規定したのか？
—西洋化、脱中国化と国民国家の構築—
- ⑩-2 子奪取条約とインターセクショナルリティ
—『家庭の法と裁判』に掲載されたケースを通して—
- ⑩-3 戦後日本の家族と子供の健全育成
—1955 年～1960 年代の鹿児島県における
「家庭の日」を例に—
- ⑩-4 男女共同参画センターの相談におけるエンパワーメント
—市民の“困りごと”調査結果から—

司会 田間泰子（大阪公立大学）

施 君菲（京都大学・院）

嘉本伊都子（京都女子大学）

柳園順子（鹿児島純心大学）

中村聡衣（一般財団法人大阪男女
いきいき財団）

服部良子（大阪市立男女共同
参画センター）

昼食・委員会

12 : 30～14 : 00

午後の部

14 : 00～16 : 30

公開シンポジウム

若者の地方暮らしから考える新時代の家族（神戸大学百年記念館六甲ホール）

司会 永田夏来（兵庫教育大学）

荒牧草平（大阪大学）

討論者 久保田裕之（日本大学）

田淵六郎（上智大学）

- 1 地方に生きる若者たちの現在
—新しい公共・新しい働き方・新しい家族？—
- 2 ポストアーバン化時代の地方暮らし

阿部真大（甲南大学）

轡田竜蔵（同志社大学）

連絡事項

大会参加登録(事前登録が必要です)

大会参加を希望される会員は、**事前に参加登録と参加費の納付が必要です**。今大会も、事前参加登録のみで当日参加登録はありませんので、ご注意ください。

日本家族社会学会第33回大会ホームページから登録してください。ログイン名とパスワードが必要です。ログイン名は、学会からの送付物のタックシールに記載されている番号(数字8桁;上4桁は数字の0、下4桁は会員名簿に記載されている数字)です。パスワードが不明な場合は、「会員専用ページ」から問い合わせてください。

大会参加費

一般会員：4,000円(事前登録・事前支払い)

学生・減額会員・終身会員：2,500円(事前登録・事前支払い)

非会員一般：5,000円(事前登録・当日支払い)

非会員学生：3,000円(事前登録・当日支払い)

交流会参加費

無料

- **一般会員/学生会員/減額会員/終身会員の方**

第33回大会ではWeb上での参加登録のみです。決済方法は**カード支払い(クレジット決済)**のみとなります。大会参加登録に関する期限は、次のとおりです。

参加登録・支払い方法	参加登録・支払い期限
Webによる参加登録 +カード支払い	8月22日(火) 24時まで

カード決済方法について

Web上で参加登録される際に、決済されるカードのカード所有者名、カード番号、有効期限をご入力ください。Web上での参加登録と参加費支払いが同時に完了となります。参加登録及び決済が完了すると、「日本家族社会学会第33回大会「参加登録」受付通知」の件名で完了をお知らせする通知メールが自動配信されます。尚、カード明細には「国際文献事務センター」と表示されます。

※領収書は、当日会場で名札兼領収書の形式でお渡しします。

※参加登録期限を厳守してください。期限を過ぎての参加登録は受付できません。また、いかなる理由でも、参加費は払い戻しません。

- **減額会員の方**

常勤職にないなどの理由による会費減額申請の受付は2023年5月31日に終了しています。現段階で承認を受けている方が学生会員と同じ適用となります。

- **非会員の方**

非会員の方は、Web上の申し込みはできません。大会ホームページより、非会員専用の参加申込申請フォーム(Excel形式)に必要事項を記入の上、ヘルプデスク<jsfs-desk☆conf.bunken.co.jp>までメール添付で提出してください(☆を@に変更してお送りください。大会ヘルプデスクへの提出期間:6月30日(金)~8月22日(火)24時)。

非会員の方の参加費は、一般5,000円、学生3,000円です。当日、会場にて現金でお支払いください。なお、公開シンポジウムのみ参加希望の非会員の参加費は無料です。

その他の注意事項

● 報告要旨集

報告要旨集は電子版の Web 要旨集のみとなります。Web 要旨集は、大会 HP 上で 8 月 23 日（水）公開予定です。大会当日、会場でのダウンロードはサーバーにつながりにくくなることが想定されるため、**できるだけ事前にダウンロードしてからご参加ください。**

● 交流会(茶話会)

大会第 1 日目（9 月 2 日）総会終了後（18:00～19:00）に、瀧川記念学術交流会館 1 階にて開催します。状況が許せばお茶やお菓子をいただきながら、楽しいひとときを過ごせればと考えています。ぜひご参加ください。参加費は無料ですが、お茶とお菓子を準備する都合上、参加登録時に参加の有無を選択ください。

● 昼食

両日とも、事前にお弁当購入の申込を受け付けます。大会申込とは別にお申し込みください。お弁当は当日現金でお支払いください。近隣にはレストランはありません（駅まで下ればあります）。近くの生協も閉まっています。学内のコンビニは徒歩 5 分、1 店舗のみです。ご注意ください。お弁当購入の申込方法については、大会ホームページに掲載いたします。

<http://www.jsfs-family sociology.org/conf/2023/participant.html>

● 宿泊

宿泊につきましては、各自で予約してください。JR 三宮駅/阪急神戸三宮駅、JR 元町駅周辺にはホテルも多く、とても便利です。大阪駅や新大阪駅周辺からも比較的便利です。**宿泊施設は混雑が予想されます。お早めに手配してください。**

研究報告者および司会者の方々へ

- 自由報告（口頭）の**報告時間は 20 分、質疑応答は 5 分**です。報告者と司会者は、セッション開始 10 分前に会場の前方に集合してください。報告者はご自身の報告開始時間のいかんにかかわらず、この時間に集合し、配布資料を会場系の学生にお渡しください。

● 大会当日の配布資料

報告資料は、オンライン上にアップしてください。詳細は別途お知らせします。**当日配布を希望する方は、各自で用意してください。**その際の目安は、自由報告は 50 部、テーマセッションは 80 部です。会場でのコピー・サービス、配布資料の会場への事前送付には対応できませんので、ご了承ください。配布資料が余った場合は、部会終了後、会場系の学生が「残部コーナー」（会員控室）に移してくれますので、部会に参加できなかった参加者にも読んでいただくことができます。「残部コーナー」に移された資料は、2 日目の 14 時までにお引き取りがなければ、大会事務局にて廃棄します。

● 自由報告・テーマセッションの司会者の方へのお願い

参加者の便宜のため、報告者の進行時間を厳守してください。当日報告者に欠席が生じた場合は、報告者の順番を詰めて進め、欠席があったことを会場入り口に掲示してください。

● PowerPoint 等の使用に関する注意事項

- a. 報告会場となるすべての教室に、ノート型パソコン（Windows, Microsoft Office）が備え付けてあります。
- b. Microsoft-Power Point の pptx もしくは ppt 形式、と PDF 形式で保存したデータを USB メモリに記録してお持ちください。
- c. **機器を使用する報告者は、部会開始 15 分前**に報告会場となる教室におこしください。機器使用に関する準備・打ち合わせなどを行ないます。
- d. 開催校ではできるかぎり準備と協力をいたしますが、機器操作の結果につきましては報告者の自己責任でお願いします。万が一機器が作動しない場合に備えて、複写して配布可能な印字原稿を用意いただくなど、次善の方策もお考えください。
- e. どうしてもご自分のパソコンを持ち込んで使用する場合、開催校では **RGB・VGA ケーブル**による接続となります。変換アダプタ等は会場に備え付けられておりませんので、あらかじめご了承ください。

さい。

- f. レーザーポインタなど、他に必要とされる機器はご自身でご用意ください。

大会期間中の託児室の設置

- 今大会では託児サービスの利用が可能です。詳細は後日（6月末までに）、大会ホームページに掲載します。そちらでご確認のうえ、申込を行ってください。

大会期間中の学内無線 LAN の利用

- 無線 LAN が利用できます。詳細は当日、受付にて案内します。eduroam（大学等高等教育機関無線 LAN ローミングサービス）も利用可能です。

その他

- 例年同様、出版社による書籍・雑誌の展示・販売コーナーを開設します。申し込み・問い合わせは大会実行委員会事務局宛にメールにてご連絡ください。
- 例年同様、抜き刷り交換コーナーを設けます。なお当日の抜き刷り冊子の管理（展示、撤収など）については各自の責任で行ってください。
- 大会に関してご不明な点などありましたら、大会実行委員会事務局宛にメールにてお問い合わせください。
- 大会ホームページ（<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2023/index.html>）にも同様の内容を掲載しています。

会場案内

【会場・連絡先】

大会実行委員会事務局

住所：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部 平井晶子研究室内

Tel.078-803-5513（直通）

メールアドレス：jsfs-taikai☆bunken.co.jp（☆は@に変更してください）

大会本部（大会当日）：文学部 A 棟 1 階 学生ホール

【会場へのアクセス】

神戸大学六甲台第 2 キャンパス

<https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/index.html#ac>

阪急神戸線「六甲」駅（徒歩 15～20 分、タクシー 5～10 分）

神戸市バス 36 系統 鶴甲団地行乗車 「神大文理農学部前」下車

JR 神戸線「六甲道」駅（タクシー 10～15 分）

神戸市バス 36 系統 鶴甲団地行乗車 「神大文理農学部前」下車

*遠方からのアクセス等は大学ホームページをご覧ください。

<https://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/index.html#far>

*徒歩の場合、上り坂が続きます。バス停も学部ごとにちがいます。ご注意ください。

*お車でのご来校はご遠慮ください。

第 33 回大会会場:神戸大学六甲台第二キャンパス



神戸市バス 36 系統 神大文理農学部前 … 最寄りバス停

[96] 文学部・人文学研究科 A 棟 … 受付・大会本部

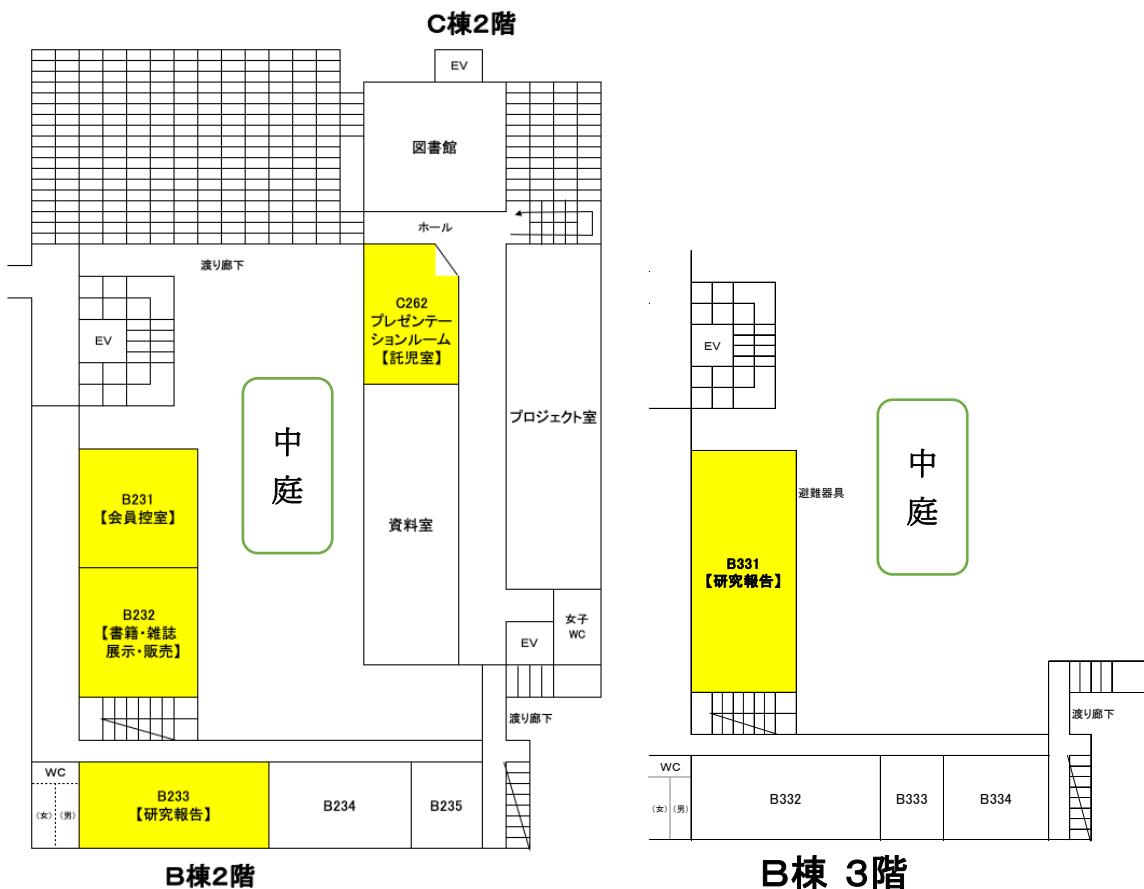
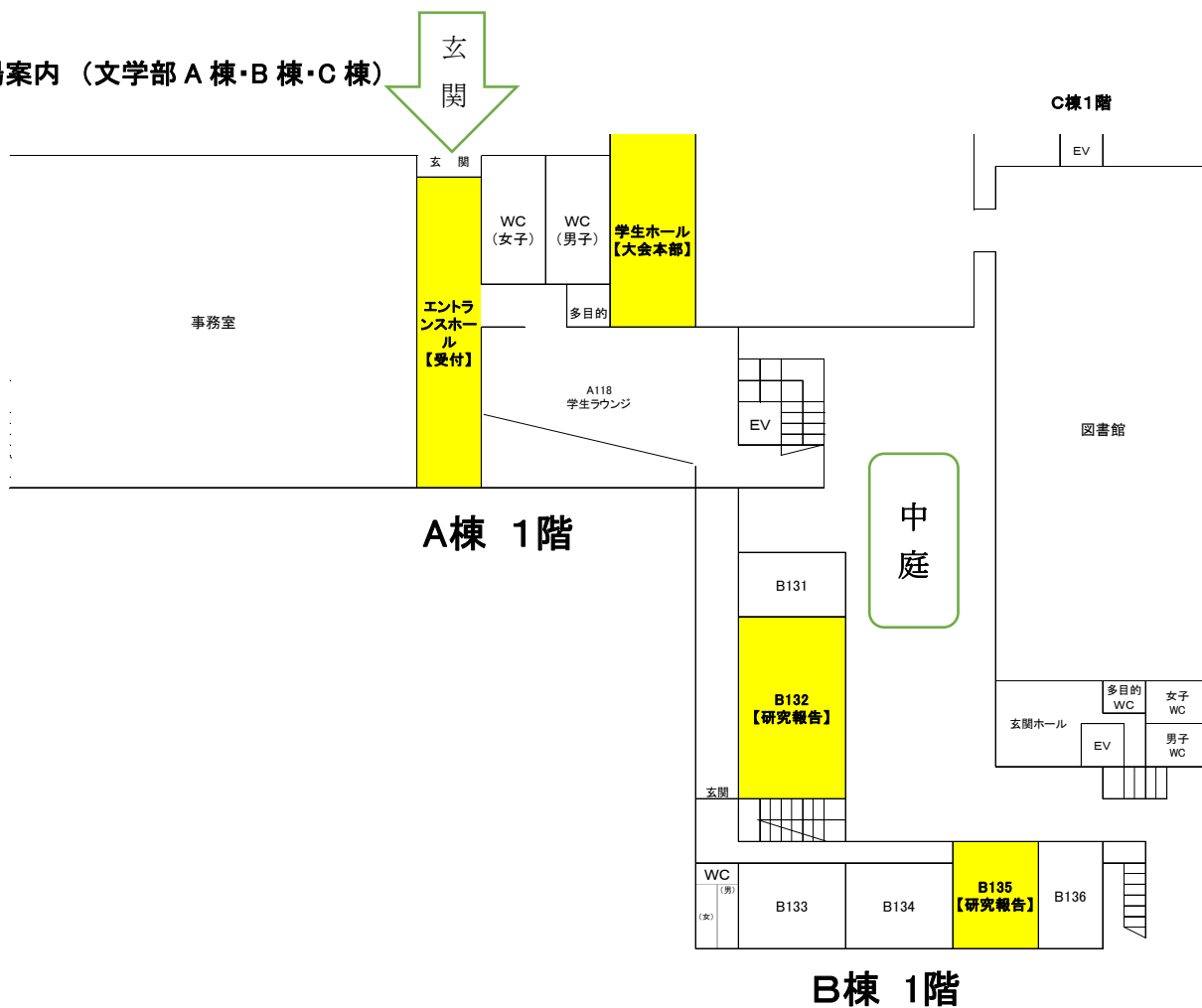
[98] 文学部・人文学研究科 B 棟 … 一般研究報告・セッション報告・委員会会場

[97] 文学部・人文学研究科 C 棟 … 託児室

[100] 瀧川記念学術交流会館 … 交流会会場

[102] 神戸大学百年記念館 六甲ホール … シンポジウム・総会会場

会場案内（文学部 A棟・B棟・C棟）



【大会実行委員】

実行委員長：平井晶子

実行委員：中谷奈津子・梅村麦生

新・現代農山村の 社会分析

高野和良 編著

定価2000円
204頁



現代における農山村での生活の実態とこれからのを考える1冊。
前著に九州地方での新たな社会調査結果を加えた新版。生活構造概念を
方法論的に採用し、西日本農山村の変化の諸相を分析。

21世紀の家族づくり 第2版

増子勝義 編著

定価2070円
264頁



ニュートラルな視点から家族をとらえなおし、あたらしい時代の「家族」に
ついて考える。専門的視点から、家族の新しいとらえ方を提示し、21世紀
の家族をめぐる諸現象について解説。時代の変化に対応した第2版。

社会学の理論原理 vol.1 マクロ・ダイナミクス

ジョナサン・H・ターナー 著/正岡寛司・山田真茂留・畑山要介 訳
●432頁 定価6600円

社会学の理論原理 vol.2 ミクロ・ダイナミクス

ジョナサン・H・ターナー 著/正岡寛司 訳
●450頁 定価7480円

人類の歴史を見渡し、社会なるものの進化の過程を理論的に探究し続け
てきたターナーの研究をまとめた社会学原論の集大成。

日本社会分析学会 監修
シリーズ生活構造の社会学

① 生活からみる社会のすがた

稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人 編著

268頁 定価2860円



② 社会の変容と暮らしの再生

室井研二・山下亜紀子 編著

298頁 定価3300円

生活に着眼した社会分析を目指すアプローチによる社会学シリーズ。
1巻は入門編・2巻は研究編。生活のかたちに視点をすえながら現代社会の
各領域を社会的に分析。生活構造論・社会学概念の可能性を示す。

【続】少子化論 出生率回復と〈自由な社会〉

松田茂樹 著

300頁 定価3080円

日本の少子化の特徴と背景要因について、全面的、総合的に分析を行い、
これからの少子化対策のあり方、および個々具体的な政策を提言する。

変容する社会と社会学 家族・ライフコース・地域社会

岩上真珠・池岡義孝・大久保孝治 編著 ●336頁 定価3850円

社会学理論・方法論、農村社会学・親族研究、家族社会学、ライフコース研究
等、変容する社会に対して各人それぞれのテーマと理論、方法で切り込む。

オトナ親子の同居・近居・援助

夫婦の個人化と性別分業の間

大和礼子 著

●224頁 定価2090円

いま、「オトナ親子」は、どのような関係を結んでいるのか？
新しい世代間関係のあり様を社会学理論と調査分析から探る。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyog@gakubunsha.com

好評既刊

ジェンダー格差大国ニッポン

生きづらさも解消する

夫の「モヤモヤ」

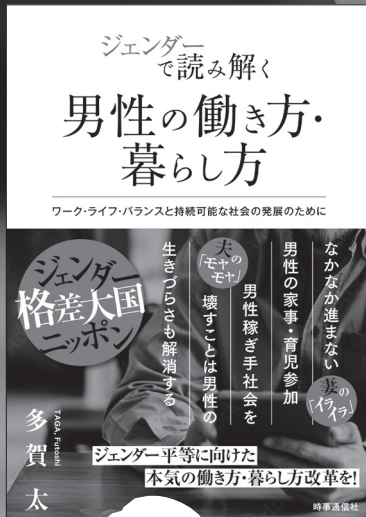
壊すことは男性の

男性稼ぎ手社会を

男性の家事・育児参加

なかなか進まない

妻の「イライラ」



ジェンダー平等に向けた

本気の働き方・暮らし方改革を!

ジェンダーで読み解く 男性の働き方・暮らし方

◆ 四六判並製 / 256頁
◆ 定価 : 1,980円 (税込)

ワーク・ライフ・バランスと持続可能な社会の発展のために 男性が家庭や地域生活を犠牲にして 働く社会はおかしくないか!?

関西大学文学部教授

多賀太 [著]

【著者紹介】

多賀太 (たが・ふとし)

関西大学文学部教授

1968年、愛媛県宇和島市生まれ。九州大学教育学部卒業後同大学院に進み、1999年、「男性のジェンダー形成に関する研究」で博士(教育学)を取得。九州大学助手、久留米大学助教授、関西大学准教授などを経て、2009年から同教授。専門は、教育社会学、家族社会学、ジェンダー学。

本書には、自分自身の働き方や暮らし方、家族や職場の同僚との関係をよりよいものにしていくための手がかりや、一人一人がワーク・ライフ・バランスの取れた生活をしながら社会が持続可能に発展していくためのヒントが具体的に分かりやすく示されている。そして、これまでの男性のあり方を単に批判して終わるのではなく、私たちの社会を、男女がウィンウィン (win-win) の関係になりながら持続可能に発展していく社会、性別にかかわらず誰もが希望を持ってよりよく生きられる社会にしていくために、男性たちには何ができるのか、というポジティブな視点からのさまざまな提案も試みている。広く男性諸氏はもちろん、子育て世代にはぜひ夫婦で一緒に読んでもらいたい。

【主な内容】

- 序 無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス)
- 第1章 男性稼ぎ手社会の終焉
- 第2章 ジェンダー平等の実現に向けて求められる男性の「ケア」労働
- 第3章 母親の「イライラ」と父親の「モヤモヤ」——「イクメン」ブームの功罪
- 第4章 家庭教育と父親役割のインフレ現象
- 第5章 ハラスメントのない職場づくりに男性はどう関わるか
- 第6章 社会を挙げてドメスティック・バイオレンス (DV) と虐待を防止する

* コチラからご購入いただけます!

Amazonでのご購入



Rakutenでのご購入



紀伊國屋書店でのご購入



【内容に関する問い合わせ】

時事通信出版局 営業企画部

Tel.03-5565-2155 mbook@book.jiji.com

<https://bookpub.jiji.com>

家族社会学事典

日本家族社会学会 編

2023年12月
刊行予定

A5判・704頁 予価26,400円(税込) ISBN978-4-621-30834-9

社会学の見地から「家族」について網羅的に解説する日本初の中項目事典

日本家族社会学会編集のもと、家族に関する多岐にわたるトピックを網羅的に扱った本邦初の「読む」中項目事典。「家族社会学」という学問の説明から、家族の歴史と比較、そして現代の家族が直面する様々な問題について第一線の研究者が編集・執筆した、これからの家族社会学を語る上で必要不可欠な新スタンダード。

【目次】

1章 家族社会学とはどのような学問か	4章 ライフコースと家族
2章 家族社会学の理論と方法	5章 家族と社会
3章 家族の歴史と比較	6章 家族社会学のチャレンジ

■編集委員一覧

編集委員長

池岡義孝 (早稲田大学 名誉教授)

編集幹事

石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学 理事・副学長)
稲葉昭英 (慶應義塾大学文学部 教授)
落合恵美子 (京都産業大学現代社会学部 教授)
田間泰子 (大阪府立大学 名誉教授)

西野理子 (東洋大学社会学部 教授)
野沢慎司 (明治学院大学社会学部 教授)
山田昌弘 (中央大学大学院文学研究科 教授)

編集委員

岩井紀子 (大阪商業大学総合経営学部 教授)
岩井八郎 (摂南大学現代社会学部 特任教授)
岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部長)
上野加代子 (東京女子大学現代教養学部 教授)
釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究所第2室長)
賀茂美則 (ルイジアナ州立大学 名誉教授)
木戸功 (聖心女子大学現代教養学部 教授)
施利平 (明治大学大学院情報コミュニケーション研究科 教授)
杉井潤子 (京都教育大学 名誉教授)
相馬直子 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授)

高橋美恵子 (大阪大学大学院人文学研究科 教授)
土屋葉 (愛知大学文学部 教授)
筒井淳也 (立命館大学産業社会学部 教授)
中里英樹 (甲南大学文学部 教授)
平井晶子 (神戸大学大学院人文学研究科 教授)
松木洋人 (早稲田大学人間科学学術院 教授)
牟田和恵 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
米村千代 (千葉大学大学院人文科学研究院 教授)

(五十音順 2023年5月現在)

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>